

卒業論文の要旨

論文題目	博物館の割引制度に関する考察
氏名	齋藤穂乃花
メジャー	博物館学専攻・歴史学専攻
(要旨)	
<p>本稿では、博物館の割引制度について執筆した。本テーマを選んだきっかけは、筆者が博物館でアルバイトをしていた経験から始まる。博物館には様々な割引制度が存在する。それは、日常で利用するような割引や、博物館ならではの、両方が存在する。そういった、割引制度という新たな観点から、博物館の在り方を模索することとした。また、割引制度を効果的に利用し、多くの人々に博物館を訪れてもらいたいという理由から、このテーマを選んだ。</p> <p>本稿は大きく 2 つのテーマに分けられる。博物館の割引制度、博物館法における入館料問題である。このテーマに沿って調査をしていく中で、様々なことが明らかになった。割引制度では、例えば「ファミリー・コミュニケーションの日」などがある。これは、家族のコミュニケーション促進を図るための、神奈川県での取り組みである。昨今の核家族化、ゲームの影響などによる家庭内のコミュニケーション不足を問題視して、この運動が始まった。その割引対象施設には博物館も入っている。学生割引に関する調査の中では、「学習の場」としての博物館の在り方が強く見られた。しかし、この取り組みから、「家庭でのコミュニケーションの場」という、新たな博物館利用の仕方を見出すことができる。割引制度は、ただ安くなるだけではなく、こういった目的や背景があることが明らかになった。</p> <p>昨今の海外における博物館事情には、興味深いものがあった。海外の博物館では、大半が入館料を定めず、寄附を募るかたちになっている。しかしながら、2018 年にメトロポリタン美術館が、入館料を任意から義務へと変更した。また、日本では 2019 年 10 月に消費税の増税が行われたため、入館料を値上げせざるを得ない館が、多く存在した。このように、世界的にも博物館は厳しい状況に立たされている。しかしながら、博物館の国際的定義では、非営利であることが求められている。このジレンマを抱えつつ、博物館本来の意義を失わないためには、どうすれば良いのか。そのための策として、割引制度がある。2006 年に入館料改訂を行った東京国立博物館では、値上げをするとともに、新たな割引制度を発表した。より親しみのある館になるよう、値上げだけでなく新たな割引制度を作ったと発表している。また、入館料を値上げすると、来館者が減少することが明らかになっている。その対策として、割引制度や無料開放日は効果的であると考えられる。今後、世界的にも博物館の入館料値上げ増加が予測される。博物館も、来館者も、お互い割引制度を有効活用したいものである。</p>	
(指導教員の推薦のコメント)	
<p>本卒業論文は、博物館の入館料に焦点を当てたもので、市民的には関心の高い内容と思われるが、博物館学会では先行する研究が意外に少ない。44 館に上る実地調査と、500 館を超えるホームページの調査に基づき、入館料と割引の実態に迫った労作と言える。実際に 2 か月かけて、「ぐるっとパス」を活用し、割引のメリットを体験する調査は、学生ならではの発想と実践であると言えよう。また、国内外における諸制度についての調査も踏まえ、割引制度について展望している点も高く評価したい。</p>	